

元湯の起こり

熱海温泉100年

古来より愛され続ける湯治場

熱海温泉碑によると、古くからこの地には温泉が湧いていました。村人たちはこの湯の効き目を知らずに、ただ顔を洗い、口をそそぐために利用していただけでした。ところが不思議なことに、眼病の人はその病が治り、歯の痛みは癒え、ためしにこの湯を浴びてみたところ狂犬や蝮の毒は排出し、皮膚の傷が化膿したものや、できものなどに効果があり、これらのことは近隣に知れ渡っていました。

元文三年(1738年)

この温泉の効能を惜しんだ二本松藩本宮代官、吉田弥右衛門守舒は、村人たちに浴舎浴槽を整備させ温度を調整する方法を教えて温泉を利用しやすくしたところ、年中湯治客でにぎわい、人々は豊かになりました。

享和三年(1803年)

「陸奥の編笠」(越後長岡藩士の探索日記)に当時の熱海の街の様子が書かれています。「家は30軒ほどで、立派な建物の旅籠屋もあれば木賃宿も、湯小屋は町裏にありぬるい湯と沸かした湯がある。湿疥癬の名湯なり」と記述がみられます。

文政二年(1819年)

村人たちは、守舒の功績と、熱海温泉の起りを後世に伝えるため石碑を建てました。これが『熱海温泉碑』です。昔は元湯の敷地内に建っていましたが、現在は当社所有地の湯泉神社境内に移設されています。



元湯の発展

明治六年(1873年)

高玉村「諸用記上控帳」によると、旅籠屋を営む者が19人いたことが分かり、江戸時代から変わらず親しまれていることがうかがえます。



大正七年(1918年)

地元住民19人が出資し合い『熱海温泉合資会社』が創立される。ここより磐梯熱海温泉「元湯」の新しい歴史が始まりました。



愛され続ける元湯

熱海温泉100年

平成三十年(2018年)

創立100年にあたる節目を迎えた。現在でも皮膚病の名湯として知られ、町内はもちろんの事、各地からファンが足しげく通う常連のお客様でにぎわっています。



女湯

効能

当温泉固有の適応症

- ・ぎりぎず
- ・やけど

一般的適応症

- ・神経痛
- ・関節痛
- ・疲労回復
- ・冷え性 など



※福島県の決定による

～初めての方向け温泉入浴法～

- ・初めての方は、3分～10分程度を目安にし、慣れるに従って延長してください。
- ・ぬる湯→あつ湯→ぬる湯と交互に入浴することで、血流を良くすることができますお勧めです。
- ・入浴後は、身体に付着した温泉成分を洗い流さないでください。(湯ただれを起こしやすい人は、真水で洗うか、温泉成分をふき取ってください。)
- ・入浴回数は、最初の数日は1日当たり1回程度とし、その後1日当たり2回ないし3回にして下さい。
- ・療養期間は2～3週間が適当です。
- ・数日後、湯あたりが現れる事がありますが、その間は入浴回数を減らし、又は入浴を中止し、回復を待ちください。

～注意事項等～

- ・あつ湯は43℃～45℃の高温、ぬる湯は30℃程度となっておりますので、心臓疾患等の方は、医師にご相談ください。
- ・シャワーは1台のみ設置してあります。
- ・シャンプー、石鹸の備え付けはございません。(持ち込みは可能)
- ・タオル、バスタオルの貸し出しもございません。(タオルは100円にて販売)

◎磐梯熱海温泉の伝統ある歴史

歴史ロマンを感じながらお湯にお入りください。昔ながらの温泉をお求めの方にお勧めします！

◎広く愛されてきた皮膚への効能

昔から皮膚病にお悩みの方が多く利用しています。皮膚にお悩みをお持ちの方、是非一度先人たちにならいお試してください。

◎3種類の源泉

元湯源泉、神社保護組合泉、市営源泉の3種類の源泉がお楽しみいただけます。



昭和30年代の元湯と、現在の元湯

アクセスマップ



【駐車場のご案内】

- ①旧湯元元湯駐車場
- ②わかさや駐車場わき(二区画)
- ③平さんガレージ前(砂利敷きの処)



熱海温泉合資会社 共同湯「霊泉」元湯

〒963-1309 福島県郡山市熱海町熱海四丁目22番地

TEL(024)-984-2690

2020年9月印刷

磐梯熱海温泉

共同湯「霊泉」元湯



熱海温泉合資会社